



メルボルン日本人学校 2014年 年間報告

6 Ellington Street, Caulfield South
VICTORIA 3162

T (03) 9528 1978
F (03) 9528 6150

melko@jsm.vic.edu.au

adm@jsm.vic.edu.au

<http://www.jsm.vic.edu.au/index.html>

I. 校長挨拶

今年で30年目を迎えるメルボルン日本人学校の前身は、昭和43年9月に創立されたメルボルン補習校でした。昭和61年5月に現在の場所（6 Ellington Caulfield South VIC 3162）において、児童・生徒数96名でスタートしました。平成2年頃には子どもたちの人数がプレップ（幼稚園部）を含めると150名を超えることもありました。現在はプレップ5名、小学部44名、中学部19名、合計68名の子どもたちが元気に楽しく学習を進めております。設立母体でありますメルボルン商工会議所、学校運営理事会や保護者会の皆さまをはじめとして、オーストラリア政府・ビクトリア州政府・日本国政府・海外子女教育振興財団などの多くの方々を支えられて今日を迎えるに至っております。

本校では従来から、国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りをもって、世界に羽ばたく人材の育成をめざした学習活動の実践と、日本の学習指導要領に基づく教育課程の編成を行い、「確かな学力」をさらに「質の高い日本の教育」へ、また、オーストラリアの地の利を生かした活動により「豊かな心」の育成に努めています。

平成21年度からは、コミュニケーション能力の向上と英語教育（EAL）に力を入れていきます。英語力の向上はもちろん、「全教科を通じて話し合い活動を充実させ、コミュニケーション能力を高めていこう」と教職員一同、気持ちを一つにして取り組んでいます。その一環として、少人数の利点を生かしながら、自由に自分の意見を言える雰囲気づくりと、友達の意見を聞いて自らの考えを高めていく場を常に設定する授業づくりを工夫していきます。さらには、指導力のあるEAL（第2外国語としての英語）教員の指導力を活かして「英語が使える日本人の育成」にも力を入れていきます。また、現地校との交流内容を工夫して、一層の充実を図ってきています。その結果、英語の力は検定結果にも表れているように飛躍的に向上しています。

少人数学級編制による、きめの細かい行き届いた心配りのできる環境で、「質の高い日本の教育」を目標にして、文部科学省より全国から選抜された、卓越した力量をもつ経験豊かな教職員が日々努力を積み重ね、教育活動に邁進しています。その結果、26年度に中学部を卒業した生徒3名は、昨年度に引き続き、希望していた日本及び現地の高等学校へ進学することができました。入学できたのも、「質の高い日本の教育」を実践し、きめ細やかな個別指導を徹底した結果であると自負しております。

また、平成21年度に、ヴィクトリア教育省より、「特別学校」として認可され、カリキュラムについては、オーストラリアの教育内容に合わせることなく、日本のカリキュラムに沿って授業することが認められました。ナプランの試験は、子どもたちの英語力を確かめるために行っておりますが、教えている内容が他の学校と異なりますので、結果は比較の対象にはならないものと考えております。

II. 本校の教育目標

本校は、メルボルン周辺に在住する日本人子女及び、今後日本において日本の教育を受ける予定のある者に対して、オーストラリアの現地校としての枠組みの中で、日本国憲法・教育基本法・学校教育法の基本概念をしっかりと把握し、学習指導要領に準じた本校の教育計画・教育活動を実践しております。

日本人としての自覚を持って国際社会を生きていくこころ豊かな子どもの育成
～質の高い日本の教育を通して「自学自治」をめざす～

＜学校経営方針＞ 誠意と情熱をもって、子どもたちとともに夢と可能性に挑戦し、感動を生み出す学校づくりをする

<重点課題>

- ①生きる力としての学力の向上……進んで学ぶ子
【わかった・できた・やってよかった】という授業の充実をメル校の文化に
(かけがえのない命)
- ②温かい人間関係づくりと自治的な実践力の向上……思いやりのある子
【人権尊重(命の教育)】をメル校の校風に
(支えあう命)
- ③目標を持ち、集中して取り組む生活姿勢づくり……強い意志でやり抜く子
【志高く・ねばり強く・ひたむき】な生き方をメル校の伝統に
(かがやく命)

<実践の重点>

教科指導＝「確かな学力」を身に付けさせる

- ・ねらいと出口の姿を明確にした単元指導計画と指導案を作成する。
- ・ねらいにせまるために、教材や教具、学習活動のさせ方、発問等を工夫する。
- ・学習規律、学習集団、学習習慣をつくる指導を学年に応じて段階的に進める。

道徳教育＝自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる

- ・行事や活動で育てたい道徳性を明確にし、道徳の時間と関連付けた指導をする。
- ・あいさつ、時間、言葉遣いを大切に、他者を思いやる心を醸成する。
- ・ねらいとする価値を明確にし、願う児童生徒の様相を具体化して道徳の時間の指導をする。

外国語教育＝言語環境を活かし高いコミュニケーション能力を身につけさせる

- ・小学部高学年における英語では、中学校英語の導入として配慮し、指導を図る。
- ・中学校英語は学習指導要領の内容を指導するとともに、言語環境を活かし発展的内容の指導を図る。
- ・学校の特長を生かし小学部・中学部全学年において、EAL 教員による指導を図る
- ・5・6年生の外国語活動(英語)と関連して総合的な学習の時間として指導する。
- ・現地校との交流学习を通して、コミュニケーション能力の向上と国際的な視野を広げる。

総合的な学習の時間＝探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する力を育てる

- ・小中学校のつながりを踏まえ、各教科等との関連を明確にして、課題意識が連続する指導計画を工夫する。
- ・海外の特性を活かした体験活動と言語活動を意図的・計画的に設定し、探究的な学習を行う。

特別活動＝「認め合い・高め合う集団」と「よりよい生活をつくりだす力」を育てる

- ・自治的・自発的な活動の運営の仕方や仲間との関わり合い方を段階的に指導する。
- ・学級目標に示す、育てたい集団の姿を明確にし、年間を通して意図的・計画的に学級経営をする。
- ・「生活見つけ→問題見つけ→解決方法の具体化→生活化」の過程を重視した学級活動を行う。

情報教育＝発達段階に応じて、情報化社会における知識や活用能力を育てる

- ・情報化機器に対する検索・収集・選択・発表・発信など活用能力を育てる。
- ・情報機器に潜む危機管理意識を育て、正しい情報管理と活用についての知識を養う。

進路指導＝自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる

- ・小中学校の連携を図り、児童生徒の発達段階に応じた指導計画を工夫する。

- ・望ましい勤労観・職業観を育てる体験活動を工夫するとともに事前事後の指導を大切にする。
- ・一人一人が自分のよさを自覚し、夢や希望をもって主体的な進路選択ができるような情報提供や学習の工夫をする。

生徒指導＝共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる

- ・規範、マナー、情報モラル等について、一貫した姿勢と体制で指導する。
- ・生命と人権を大切にする観点から、常に児童生徒の姿や心の変化をとらえると同時に、教育相談などを意図的に実施する。
- ・オーストラリアのよさを学び、価値ある生き方ができるよう「意味づけ・価値づけ、方向づけ」の指導を徹底する。

健康安全教育＝運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる

- ・児童生徒の生活や健康状態、安全意識等の実態と発達段階を踏まえた指導計画を工夫する。
- ・健康で安全な生活に関する具体的な指導内容を明確にし、各教科等の特質を生かした効果的な指導を行うとともに、個に応じた指導を工夫する。
- ・オーストラリアにおける健康、安全に関する研修を行うとともに、管理・指導を徹底し、事件・事故の未然防止に万全を期す。

特別支援教育＝一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる

- ・特別支援教育担当を中心に全校職員で指導する体制をつくる。
- ・LD、ADHD等の特性や支援のあり方、個に応じた指導についての校内研修を計画的に実施する。
- ・保護者との連携を密にし、一緒に育てる意識と支援体制をつくる。

人権同和教育＝人間尊重の気風がみなぎり誰もが大切にされる学校づくりを推進する

- ・常に人権感覚を磨き、誠意と情熱をもって児童生徒に接する。
- ・身に付けたい三つの力「認識力・自己啓発力・行動力」のどの力をつけるための指導なのかを明確にする。
- ・全教育活動を通して、人権同和教育を推進する。

Ⅲ.主な行事

1, 年間の主な行事内容

①始業式・入学式・着任式

4月14日には、羽田総領事や上野理事長などの来賓を迎え、始業式・入学式を行った。
プレップ・小学部・中学部68名で平成26年度がスタートした。

②ジャパンフェスティバル

5月18日の日曜日。ボックスヒルの会場で行われたジャパンフェスティバルに参加した。
4月から一生懸命練習してきた「花笠音頭」を小学部の子どもたちが、中学部の生徒たちは「南中ソーラン」をステージ上で元気に披露した。子どもたちの真剣さと動きの揃った演技は、オーストラリア人にもメル校をアピールする大きな要素となった。またブース内での学校紹介も2回目となり充実してきた。

③児童生徒総会・1年生を迎える会

4月30日の1年生を迎える会、5月2日の児童生徒総会では、子どもたちが主体的に取り組み、自分たちで会を運営する力が付いてきた。

④小・中学部宿泊学習

5月21日から23日にかけて小(4~6年)・中学部の38名がCamp Jungaiに2泊3日

で宿泊学習を行った。自然に囲まれたの中で、多くのアクティビティーに取り組み「自ら考え自ら動く、友達のために自分も頑張ろう」とする意欲的な態度で研修を終えることができた。

⑤メル校デー

9月21日の日曜日。メルボルン日本人学校にとって大きな行事の一つであるメル校デーを開催した。午前中は、全校児童生徒による「Class Time/Music Time/Wattle Time」の3つの内容を工夫し、小学部も中学部も充実した内容で素晴らしい発表をもって終えることができた。午後は保護者による合唱や外部のパフォーマーを招いての演技、日本文化体験コーナーなど企画して盛大に終えることができた。

⑥運動会

10月26日(日)、青空の下、絶好のコンディションの中でメルボルン日本人学校の第29回運動会を開催した。子どもたちは、「はじけろ ベストを尽くせ73」のテーマを掲げ、競技や演技の中で、学んできた力を存分に発揮していた。

小学部の踊りは、プレップから小学部6年生までが楽しく身体を動かし、一体となって美しく演じることができた。中学部の「南中ソーラン」では、19名が一丸となった力強い演技を見ることができた。さらに、「創作ダンス」では、楽しい表現の中に日頃の体育で培った、技能や表現力が随所に盛り込まれ、見応えのあるダンスであった。

⑦中学部交流学习(5/29・11/5)

Alia College との交流学习を行っている。1回目は訪問することで、現地校の日常生活を理解するとともに、学んできた英語力を確かめる絶好の機会となった。2回目は、カレッジの生徒を招待して、日本の文化を紹介したり一緒にゲームを楽しんだりして、英語力の向上に努めていた。昼食時には、カレッジの子たちと談笑する姿をあちこちで見ることができた。

⑧小学部交流学习(P~G4=11/12・12/17)(G5, 6=6/25・12/3)

G5, 6はSydenham Hillside Primary school、プレップからG4までは、Caulfield Primary Schoolとの交流がそれぞれ2回行われた。互いの学校に招かれ、ゲームやスポーツ活動など、工夫したアクティビティーを通して、お互いの国の言葉を上手に使いながら会話を楽しんだり、新しい発見に喜んだりして充実した時間を過ごすことができた。

⑨小学部遠足

12月11日には、小学部の1~3年生とプレップが遠足でチェリーピッキングに出かけた。農園では、たわわに実ったチェリーを食べたり、採集したりして満足して帰ってきた。3年生のリーダーとしての力がついたことや、低学年部がさらに交流を深めた行事となった。

⑩オープンクラス

1月19日から21日までのオープンクラスには6名の子どもたちが、メル校の子どもたちと一緒に学習に取り組んだ。3日間という短い期間ではあったが、大変充実した時を過ごすことができた。

⑪水泳学習

1月29日、2月5日、12日の3日間、WAVES LEISURE CENTRE において、水泳学習を実施した。ホップ・ステップ・ジャンプ・チャレンジの4グループで学習に取り組み、成果を上げた。児童生徒も、先生の指示をしっかりと聞き、着実にこの3日間で泳力が伸びた。

⑫社会科見学

1月22、2月3日は、小学部3年生と小学部6年生の社会科見学を行った。小学部3年生は、メルボルンミュージアムにおいてオーストラリアの人々がどんな暮らしをしていたかを調べました。6年生はヴィクトリア州議事堂を見学し、オーストラリアの政治や日本との関係を改めて考える良い機会となった。

⑬授業参観・懇談会・保護者全体会

2月7日の土曜日に、授業参観・懇談会・保護者全体会を実施。小学部は学年ごとの発表や全体発表を行った。中学部は、英語・国語・理科の授業を実施。その後の保護者全体会におい

て本年度の成果や来年度の教育計画について理解を図った。

⑭卒業証書授与式

3月12日に第29回の卒業証書授与式を行った。小学部9名、中学部3名の児童生徒一人ひとり卒業証書を手渡した。メルボルン日本人学校で培った友情はずっと続くものと確信をしました。卒業生には、めざす姿「自学自治」の話をして、これからは社会に貢献できる生き方を心がけるように期待を込めて送り出した。

IV. 教職員リスト (平成26年度)

1. 教職員

職種別	氏名	所有免許	性別	主任・担任・担当教科	所属	着任年次
校長	派遣教員 美谷添久男	小中	男	総括	シニア	平成24年
教諭	派遣教員 永森墨子	小中	女	小2担任・教務主任・音楽主任	神奈川	平成24年
教諭	派遣教員 田中寿和	小中	男	小6担任・主幹	愛知	平成24年
教諭	派遣教員 今井克彦	中	男	中2/3担任・中学部主任・生徒指導	熊本	平成24年
教諭	派遣教員 元木修一	中	男	小1担任・小学部主任	福島	平成24年
教諭	派遣教員 岩尾匡隼	小中	男	中1担任・理科主任	大分	平成26年
教諭	派遣教員 川添嘉之	小中	男	小5担任・体育担当	長崎	平成26年
教諭	派遣教員 高砂俊克	小中	男	小3担任・情報主任	北海道	平成26年
教諭	派遣教員 守安真好	小中	男	小4担任・数学主任	岡山	平成26年
教諭	現地採用 藤田厚子	英語	女	英語科主任・㊦56英語・㊦123英語 FAD		平成19年
教諭	現地採用 アンジェラ ニコラッツォ	EAL	女	㊦㊦EAL		平成24年
教諭	現地採用 ロビン キャンフィールド	EAL	女	㊦㊦EAL		平成24年
教諭	現地採用 渡邊あおい	小	女	ブレップ		平成23年
事務長	現地採用 葛西秀子		女	事務全般および渉外全般		昭和61年
事務	現地採用 今井教之		男	事務全般および渉外全般		平成24年
用務	現地採用 ドナルド リム		男	営繕繕全般		平成21年

2. 教職員取得免許状

免許状の種類	人数
小学校免許状	8人
小学校免許状 (TESOL)	1人
中学校免許状 (国語)	1人
中学校免許状 (社会)	2人
中学校免許状 (数学)	1人
中学校免許状 (理科)	1人
中学校免許状 (英語)	2人
中学校免許状 (体育)	2人
中学校免許状 (技家)	1人
大学院卒業専修免許状 (Applied Linguistics)	1人
大学院卒業専修免許状 (TESOL)	1人

V. 職員の出勤率 (平成26年度)

1, 教職員数

16名 正規教職員数=13名 非常勤=3名 (1名週5日、2名週4日)

2, 出勤日数

205日

$205日 \times 13名 + 205日 \times 0.73 \times 1名 + 203日 \times 0.47 \times 2名 = 3004日$ (総出勤日数)

3, 病欠等欠勤延べ日数

4日 (体調不良、旅行等)

4, 出勤率

$[(3004 - 4日) \div 3004日] = 0.99866 \quad 99.8\%$

VI. 教員の研修

1, 研修日数

10日

2, 研修実施日

4/12, 5/3, 7/3, 8/10, 8/25, 9/4, 9/10, 11/10,
12/4, 2/9

3, 研修内容

①校内研修

・全学年において、新学習指導要領に基づく指導のあり方について単元計画の見直しを図ったり、指導教材の改善を図ったりすることで教育活動の充実につなげた。

また、軽度発達障害を抱えた児童への対応方法の研修や全職員がファーストエイド資格取得の講習を受けるなど緊急時における対応ができる体制づくりを行った。

②校外研修

・職員でシュウェップスオーストラリアを訪問し、オーストラリアでの生産状況を参観したり販売網の説明を聞いたりして、教員としての資質向上に役立てた。

4, 研修費用

・平成26年度の職員研修費用はA\$4,717であった。

Ⅶ. 児童の出席率

平成26年度

	P	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8	G9	合計	授業日数	延べ日数	欠席人数
4月	5	7	6	11	3	6	11	8	8	3	68	10	680	15
5月	6	7	6	11	3	6	11	8	8	3	69	21	1449	21
6月	6	5	6	11	3	6	11	8	8	3	67	20	1340	15
7月	7	5	7	11	4	6	11	8	8	3	70	19	1330	44
8月	7	6	7	11	4	6	11	8	8	3	71	15	1065	59
9月	6	7	7	11	4	6	11	8	8	3	71	18	1278	44
10月	6	7	7	11	4	6	11	8	8	3	71	23	1633	75
11月	6	7	6	11	4	6	11	8	9	3	71	19	1349	22
12月	5	6	6	9	4	6	10	8	9	3	66	15	990	46
1月	12	6	7	9	6	5	9	8	8	3	73	14	1022	34
2月	12	6	7	9	6	5	9	8	8	3	73	20	1460	65
3月	12	6	7	9	6	5	9	8	8	3	73	9	657	15
												203	14253	455

出席率は $1 - (455 \div 14253) = 0.968968\%$

Ⅷ. ナップランの結果

1. 平成26年度実施のNAPLANテストについて

試験の問題がすべて英語で書かれており、しかもオーストラリアのカリキュラムに基づいたテスト内容で、日本の文部科学省による学習指導要領に基づいた教育内容とは、全く異なっている。そのため、このテストの結果で児童・生徒の学力を図ることはできない。

毎年、三学期より児童生徒がテスト形式に慣れるため、NAPLAN テストの指導は EAL (English as an Additional Language) や英語の授業の中で行っている。

①試験内容 : Language Conventions/Writing/Reading/Numeracy

②実施学年 : 3年生・5年生・7年生・9年生

③実施回数 : 年1回 5月中旬

④試験結果 : 毎年、全体的には Numeracy を除いて平均値を下回っているが、英語が母国語ではなく第二言語として学習していることを考慮すれば決して低いアベレージではない。

個別に見ると平均値に近い児童生徒もいる。2014年はWritingに関しては中学生で平均を超えている生徒もいた。Writing の力を付けるには、かなりの時間を要するため、日頃の授業の中で系統的に指導を行ってきた成果が出た。

《メルボルン現地校》

公 私	学 校 名	~ 05	0 6	07	08	09	10	11	12	13	14	15	計
私	BRIGHTON GRAMMAR SCHOOL	1								1			2
私	MENTONE GRAMMAR SCHOOL	1											1
私	CAULFIELD GRAMMAR SCHOOL	1											1
私	FIRBANK GRAMMAR SCHOOL	1											1
私	SHELFORD ANGLICAN GIRLS' SCHOOL	1											1
私	ST. CATHERINE' S SCHOOL	1											1
私	WHEELERS HILL SECONDARY COLLEGE	1											1
私	MENTONE GIRLS' GRAMMAR SCHOOL	1											1
私	ST. MICHAELS GRAMMAR SCHOOL	1											1
公	McKINNON SECONDARY COLLEGE	1											1
私	KILVINGTON GIRLS' GRAMMAR SCHOOL	1		1				1					3
公	ELWOOD College	0							1				1
公	Sandringham COLLEGE	0						1					1
私	Moama Anglican Grammar School	0										1	1

小学部卒業生の国公立進学先

所在地	公 私	学 校 名	~ 05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	計
東 京	私	日本女子大学附属中学校	1											1
	私	共立女子第二中学校	1											1
	私	攻玉社中学校			1									1
	私	江戸川女子中学校						1						1
愛 知	国	愛知教育大附属名古屋中学校								1				1
岡 山	私	岡山中学校	1											1
京 都	国	京都教育大学附属桃山中学校	2											2
	私	南山国際中学校	1	1										2
	私	立命館宇治	1									1		2

X. 学校評価

1. 保護者アンケート結果 (%)

※5=Very Good 1=Very Bad

(保護者回答)

①学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。

よく当てはまる どちらとも言えない 全く当てはまらない

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

54 38 1 7 0

②メル校ならではの特色ある教育活動が行われている。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

68 26 0 6 0

③教師は、子どもの能力や努力をよく見極めている。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

48 44 2 6 0

④教師は、子どもとよく話をし、よく理解している。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

43 43 5 9 0

⑤教師は、教育活動の内容等を懇談や通信等でよく伝えている。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

67 28 2 3 0

⑥学校に行ってみると雰囲気がよく、子どもたちも生き生きしている。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

62 28 2 8 0

⑦学校全体が、親の意見にもよく耳を傾け、相談しやすい雰囲気である。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

35 48 3 13 1

(児童・生徒回答)

⑧授業がわかりやすい。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

64 30 1 5 0

⑨学級が楽しく、友だちとも仲良くやれている。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

79 15 3 3 0

⑩学校へ行くのが楽しい。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

69 27 1 3 0

生徒の学校への満足度は・・・94.5%

保護者の学校への満足度は・・・89.2%

保護者の先生への満足度は・・・91.0%

Financial Performance and Position

Operating Statement Summary for the year end 31 December 2014

Expenses	<u>2014</u>	<u>2013</u>	Revenue	<u>2014 year</u>	<u>2013 year</u>
	<u>year</u>	<u>year</u>			
Employee benefits expenses	395,406	373,592	Tuition fees	451,363	391,787
Insurance expenses	18,851	21,908	Tuition fees (Overseas)	8,008	0
Office expenses	37,998	32,608	Receipts for Activities	3,946	2,325
Professional expenses	10,100	9,368	Enrolment fees	8,300	7,300
Repairs & maintenance expenses	11,988	14,066	Subsidy – Japanese Govn't	46,700	45,655
School activities expense	11,921	14,262	Subsidy – Zaidan	2,895	2,668
Students expenses	31,598	27,403	Interest	45,037	43,501
Sundry expenses	7,717	2,736	Donations & Contributions	50	50
Depreciation expenses	78,752	73,019	Other Income	0	20
			Grants from State Govn't	59,600	38,493
Total Operating Expenditure	604,331	568,962	Grants from Aust Govn't	303,143	124,069
			Other Aust Govn't Subsidy	4,858	10,701
			Total Operating Revenue	933,900	666,569
			Capital Receipt from Jap Govn't	0	6,845
			Total Revenue	933,900	673,414
			Net Profit	329,569	104,452

Statement of Financial Position as at 31 December, 2014

Current Assets	<u>2014</u>	<u>2013</u>	Current Liabilities	<u>2014 year</u>	<u>2013 year</u>
	<u>year</u>	<u>year</u>			
Petty Cash/General Account	380,800	275,996	Accrued expenses	39,072	24,358
Term Deposit	1,312,919	1,052,632	School Bonds	33,000	28,000
Prepayments	19,250	20,122	Provisions for Long Svc Leave	39,295	35,781
Interest and other receivable	16,545	27,848		111,367	88,139
Total Current Assets	1,729,514	1,376,568			
			Non Current Liabilities		
Non-Current Assets			Provisions for Long Svc Leave	20,044	13,810
Building at cost	1,242,239	2,397,747			
Additions	0	8,375	Total Liabilities	131,411	101,949
Loss of disposal	0	0			
Less Acc depreciation	(60,619)	(60,517)	Net Assets		
	1,181,620	1,242,239	Accumulated surplus	2,957,373	2,852,921
			Operating surplus	329,569	104,452
Furniture & fittings at cost	38,772	154,590	Total Member's Funds	3,286,942	2,957,373
Additions	55,941	12,426			
Less Acc depreciation	(10,425)	(7,399)			
	84,288	38,772			
Educational equipment at cost	19,471	20,713			
Additions	27,396	2,954			
Loss for disposal	0	0			

Less Acc depreciation	<u>(6,673)</u>	<u>(4,196)</u>		
	<u>40,194</u>	<u>19,471</u>		
Library books at cost	6,057	78,616		
Additions	1,500	1,459		
Less Acc depreciation	<u>(1,035)</u>	<u>(907)</u>		
	<u>6,522</u>	<u>6,057</u>		
Freehold land at cost	<u>376,215</u>	<u>376,215</u>		
Total Non-Current Assets	<u>1,688,839</u>	<u>1,682,754</u>		
Total	<u>3,418,353</u>	<u>3,059,322</u>	Total	<u>3,418,353</u> <u>3,059,322</u>